

整形外科

手首の骨折

国吉病院
整形外科部長 矢作 宏 さん



中年以降の女性では、骨粗しょう症で骨がもろくなっていることが多く、手のひらをついて転倒しただけでも、手首を骨折しやすくなっています。若い人でも転落や交通事故など強い力がかかると起こります。

手首の骨折は、2本ある前腕骨（肘から手首までの骨）のうち、の橈骨（親指側の骨）の端で起こります。また、同時に尺骨（小指側の骨）の端が折れることもありま。けがをするると早々に腫れが出て、多くの場合、手の背側にずれて変形します。高齢者では、背骨の骨

折や股関節の骨折に次いで多い骨折です。この骨折の治療は、基本は手を引っ張って整復し、ギプスを当て骨のつくのを待ちます。この間、手首は固定してありますが、指や肩、肘はよく動かし、手首以外の関節が硬くなることを防ぎます。

この骨折を起こしやすい高齢者では、骨粗しょう症のため骨折部が粉碎されていることが多く、ギプスをしていてもずれやすく、ずれてしまうと治りが悪くなります。このような場合には手術が適応されま。以前は鉛筆の芯ほどの鋼

線で固定したり、創外固定という方法が多く行われましたが、鋼線などの刺入部の治療が大変でした。最近では、スクリューとプレートがかみ合う「ロッキングプレート」が開発されてよく用いられるようになりました。以前は骨折後3カ月～半年ほど調子が悪いケースがよく見られたのですが、このプレートでは固定性が良いため、早くから動かせることで良い経過が望めます。無理な動作や力をかけることはできませんが、骨折後2～3週でもずいぶん楽に手を動かせるようになります。

高齢者において骨のずれがひどい骨折では、早々にロッキングプレートで手術をして早くに手を動かしながら治療することが多くなりました。

国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】消化器内科・循環器内科・消化器外科・緩和ケア内科・整形外科 他